

丸の内キャリア塾とは、キャリアデザインを考える女性のための実践的学習講座です。
毎回、キャリアやライフプランに必要な考え方と行動について多面的に特集しています。

NIKKEI 丸の内キャリア塾 <https://nwp.nikkei.com/marunouchi/>
Facebookページは <https://www.facebook.com/marunouchi/>
Instagramアカウントは https://www.instagram.com/_marunouchi/



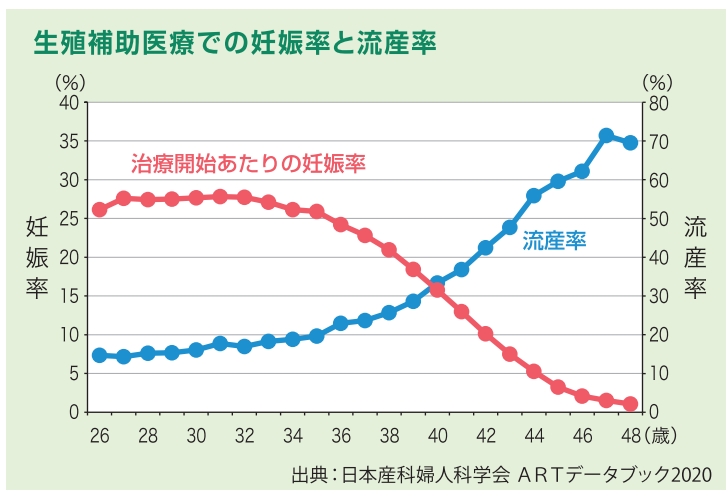
Twitter
@_marunouchi_

「女性の健康週間」3/1~8

産婦人科医が女性の健康を生涯にわたり総合的に支援することを目指し、3月3日のひな祭りを中心に3月1日から8日の国際女性の日までの8日間を「女性の健康週間」と定め、日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会の共催で2005年にスタート。08年からは、厚生労働省も主催する国民運動として様々な活動を展開しており、今回で19回目を迎えます。全国各地で開催される女性の健康に関する市民公開講座などの情報は、日本産科婦人科学会ホームページの「イベント情報」よりご確認ください。



自分の体をチェック
事前に話し合いを
——どのような状態を「不妊」と
いうのですか。
倉澤 妊娠を望む健康な男女
が避妊をせずに性生活をおくり、
一年以上たっても妊娠しない状
態をいいます。ただし、精子がい
ない場合や卵管がふさがってい
る場合など原因が明らかであれ
ば、1年を待たず治療を始めま
す。
子どもが欲しいのになかなか
妊娠しないからと、すぐに不妊治
療を考えるのではなく、まずは男
女ともに自分の体のチェックの
ために産婦人科医に相談してほ
しいと思います。信頼できる医師
をかりつけ医にしてください。
——不妊治療はどのようなステ
ップで行われますか。
倉澤 まず妊娠を妨げている
原因を探ります。男性には精液
検査を、女性には卵管につまり
がないかやホルモンの状態はど
うかなど生理期間を含む1~2
カ月の間に検査を行います。体
の状態を明らかにし、原因があ
れば適切な治療法を探すことが
第一歩です。
明確な原因が認められない
場合、一般的には排卵誘発剤を
使用しながら妊娠しやす
いタイミングの指導
などが行われます。そ
れがうまくいかなけれ
ば、人工授精や体外受
精など昨年から保険適
用となった生殖補助医
療を検討します。
生殖補助医療に移行
するタイミングは年齢
や卵巣の機能などに
よる個別に決定してい
きます。35歳以上であ
れば、早めにステップア
ップした方がいいかと思
います。
——不妊治療が長期に
及ぶ人もいます。どのよ



丸の内キャリア塾スペシャルセミナー **オンラインライブ配信
事前登録制(無料)**

あなたのリプロダクティブヘルス&ライツを考えよう!
~自分らしく生きる。体・心・性~

■日 時：2023年3月1日(水) 18:00~20:30
お申し込み <https://events.nikkei.co.jp/55631/>
お問い合わせ または 検索

応募締め切り **2023年 2月28日(火) 12:00**

企画・制作=日本経済新聞社Nブランドスタジオ

※次回は2月9日(木)の夕刊に掲載します

カップルで歩む不妊治療 かかりつけ医も共に

女性の健康週間 インタビュー ③ 不妊症

「女性の健康週間」を応援する本特集、3回目は「不妊症」を取り上げます。治療が長期に及ぶこともある不妊症。2022年4月からその治療が保険の適用対象になり、患者の負担軽減が期待されます。不妊治療に詳しい横浜市立大学の倉澤健太郎先生は「自分の体を知るためにも、かかりつけ医をつくるのが大切。企業や社会の意識変革も求められる」と話します。



倉澤 健太郎先生

横浜市立大学大学院医学研究科
生殖生育病態医学講座 准教授
周産期医療センター長

うにゴールを決めればいいで
しょうか。
倉澤 治療を始める段階から、
ある程度こうありたい、こうし
たいという話し合いをカップルで
しておくことが重要です。状況が
変われば、その都度作戦会議を開
くことも大切です。
不妊治療は時間的、肉体的、精
神的に女性に大きな負担がかか
りがちです。男性は女性と共に歩
むことを意識しなければなりま
せん。生殖補助医療の保険適用
で、治療計画書の作成・見直しの
際にカップルでの来院が求めら
れるのはそのためであると思
います。
——不妊治療における課題とは
何でしょうか。
倉澤 働く女性が上司や職場
に相談しにくいという声はよく
聞きます。不妊は感染症などと違
い病気として認識されにくく、周
囲の理解を得られないことがあ
ります。不妊治療は受診日を曜日
で決めにくく、月経周期で予定が
変わることも珍しくありません。
平日に急な受診が必要になるこ
ともあり、仕事との両立に悩むこ
とは多いと思います。
——生殖補助医療の保険適用化
での変化を感じますか。
倉澤 受診のハードルが下が
った、経済的な負担が少し軽くな
ったという人は多くいるように
感じます。保険適用になったこと
で、どの病院・クリニックでも同
じような料金で同様の治療を受
けられるようになりました。透
明性が増したことは、不妊治療に
対する安心感を高めることにもつ
ながっていると思います。
——不妊治療をサポートするた
めに、企業や社会にはどのような
ことが求められますか。
倉澤 企業の意識は変わりつ
つあり、キャリアと出産の両立も
不可能ではなくなってきました。
不妊治療を受けやすい休暇制度
の導入など、女性が働き続けやす
い環境づくりを進めてほしいと
思います。
子どもを持たない人、1人で生
きる人、そして子どもを持ち、家
族をつくる人、こうしたすべての
人々が私たちの社会を形作って
います。一方、子どもを持つと経
済的にもキャリア的にも厳しい
と感じさせる世の中ではないけ
ません。安心して家庭を築けるよ
うな社会づくりこそ取り組むべき
課題の本丸だと思います。

知ることは、自分を守ること。

女性のカラダの悩みは、ひとりで抱えられがちです。

まわりには言いづらい悩み、もやもやとした不調、言葉では表せない不安。

「女性のための健康ラボMint+」は毎日を前向きに過ごすためのヒントを発信し、

健やかな人生を歩むための、よりどころになりたい。

自分を大切に、自分らしく生きる女性一人ひとりのために。

あすか ミント



すべての女性に、より豊かで、 より健やかな毎日を。

オルガノンは、女性一人ひとりの健やかな毎日の実現に

取り組むグローバルヘルスケア企業です。

私たちは、3月8日の「国際女性デー」を会社休日とし、

全世界の従業員1万人が自分やパートナーの健康を見つめ直す日としています。

さまざまなライフステージで向き合う女性特有の症状や疾患への理解がひろがれば、

女性がより社会で活躍できる、より良い世界が開かれていくはず。

世界の半分を占める女性の問題にフォーカスすることで、

女性自身はもちろん、その家族・仲間をも幸せにしたい。

それがきっと、社会全体の幸せにつながっていく、と信じて。

We are here for her health



3月8日は
「国際女性デー」

1975年の国際婦人年に
国連で提唱され、
1977年の国連総会で
議決された
記念日です。